

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670700281
法人名	有限会社 アテナメディカル
事業所名	洛和グループホーム常盤
所在地	京都市右京区常盤草木町9-8 (電話)075-871-1908

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成 20年8月19日	評価確定日	平成 20年10月22日

## 【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 12月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.5 人

## (2)建物概要

建物構造	木・鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~80,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,666 円	

## (4)利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京福北野線『常盤駅』より徒歩、2～3分の所に位置する当該ホームは、玄関前の幹線道路をはさんで嵯峨野高校があり、近隣にはスーパー、商店街、銀行などが建ち並ぶ活気ある街の中に佇んでいます。民家を改造したホームは、家庭的な雰囲気があり地域に溶け込んでいます。職員は、地域密着型サービスについて学び話し合いにより、ホーム独自の理念「寄り添いそのひとらしく」を掲げ、利用者一人ひとりの思いをくみ取る事を大切にして日々のケアに反映させています。日々穏やかに過ごされている利用者は、馴染みの関係の中で職員の支援を受け共同生活を継続しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、5項目の課題があげられました。伝達研修、思いの意向の把握、利用者・家族の希望、帰宅願望の強い方の見守り等は、職員で話し合い取組まれ改善しています。消防訓練の地域住民の参加が課題となっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、常勤職員に自己評価表を配布し全職員で話し合い確認し管理者がまとめています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しています。家族、老人福祉委員、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター、民生委員、ホーム管理者・職員が出席しており、ホームの体制・行事等の現状報告、意見交換がされています。家族から認知症の事例をあげて積極的に話をするなど充実した会議となっています。また参加者からの意見を反映しサービスの質の向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、満足度調査を実施しています。今年度よりアンケート結果を集計し、家族の意向を把握し、カンファレンスで話し合い、対応策をまとめ、家族に報告し改善に向けて取り組んでいます。敬老会の行事に参加された時に家族等の意見が述べられるように配慮しています。また、苦情箱も設置していますが利用されていません。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、地域より回覧板が回ってきます。地域のお祭りや敬老会等の行事にも参加したり小学校の運動会に行ったりしています。社会福祉協議会主催のイベントに参加し会食を楽しむこともあります。地域密着型サービスに取り組むようになり、近隣の住民との交流も深まり、自宅で咲いた、花を届けて頂いたりしています。年1回行うバザーには声をかけたり、チラシを配布して地域住民にも参加してもらっています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、管理者と職員が話し合い、ホーム独自の地域密着型サービスの理念『寄り添いその人らしく』をつくりリビングに掲示しています。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	暮らしの中で、利用者の思いを汲み取る事を大切に、日々職員間で話し合い、確認しながらケアに取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地域より回覧板が回ってきます。地域のお祭りや敬老会等の行事にも参加したり小学校の運動会に行ったりしています。社会福祉協議会主催のイベントに参加し会食を楽しむこともあります。地域密着型サービスに取り組むようになり、近隣の住民との交流も深まり、自宅で咲いた、花を届けて頂いたりしています。年1回行うバザーには声をかけたり、チラシを配布して地域住民にも参加してもらっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で、5項目の課題があげられました。伝達研修、思いの意向の把握、利用者・家族の希望、帰宅願望の強い方の見守り等は、職員で話し合い取り組み改善しています。消防訓練の地域住民の参加が課題となっています。今回の自己評価は、常勤職員に自己評価表を配布し全職員で話し合い確認し管理者がまとめています。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しています。家族、老人福祉委員、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター、民生委員、ホーム管理者・職員が出席しており、ホームの体制・行事等の現状報告、意見交換がされています。家族から認知症の事例をあげて積極的に話をするなど充実した会議となっています。また参加者からの意見を反映しサービスの質の向上に活かしています。		

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、右京区の事業者連絡会議の前にFAXで連絡があり、会議や研修が行われ交流を図っています。また、グループホームの代表として役員をしている事もあり交流する機会が多々あります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	領収書、請求書、手紙、チェック表(バイタル・入浴・食事摂取量)は毎月、写真を掲載した季刊誌は3カ月に1回郵送しています。また家族の訪問時の状況報告や介護日誌を読んでもらうなど、日々の暮らしぶりを知ってもらい安心の確保を図っています。状況に変化があれば、随時電話で連絡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、満足度調査を実施しています。今年度よりアンケート結果を集計し、家族の意向を把握し、カンファレンスで話し合い対応策をまとめ、家族に報告し改善に向けて取り組んでいます。敬老会の行事に参加された時に家族等の意見が述べられるように配慮しています。また、苦情箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職した職員がいましたが暮らしぶりには変化なく、穏やかに過ごされています。新しい職員との関係を築くために2週間をかけて引継ぎ、職員間で連携しサポートしています。また、年に2回自己評価を記入し、それをもとに管理者が職員とヒアリングをするなど離職を少なくするための配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が立てた年間計画があり、事業所は、計画に沿って共通研修・グループホーム研修を受け、報告書を作成し伝達研修を実施しています。提出された報告書には統括責任者より一人ひとりにコメントが記載されています。外部研修・スキルアップ研修なども受講しやすいように配慮しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加して交流を図っています。法人の中で、交換研修が実施されていましたが、現在は活動しておらず、個別に推薦をして交換研修をしようという計画があがっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、見学に来ていただくように説明していますがやむを得なく、緊急入居となる場合があります。ホームに慣れるまで、絶えず職員が寄り添い配慮しています。見学に来られる場合、時間が合えば利用者と一緒にお茶を飲んだりしながら、ホームの雰囲気に慣れて頂くように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握する中で、利用者の出来る事を引出し、味付けや献立、調理方法などについて教えてもらったり、洗濯の干し方やたたみ方なども学び、また、職員と一緒に花を植え、水やりをしたり、使用済みの切手を使った職員との合作の貼り絵作成をしています。日々、利用者のペースに合わせてながら職員と共に支えあう関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して、利用者の意向や思いの把握に努めています。また、日々の会話の中から把握した事を記録し全職員への周知を図り、意志疎通が困難な方は、表情などから把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、ホーム独自の24時間シートやカンファレンスの要点シートに利用者・家族の意向や思いを記載し、個々の状況を把握し、介護計画に反映させています。3ヶ月に1回担当者会議を開催し、全職員で話し合い介護計画を作成しています。家族等の来訪時に意向を聴き、往診医にはその都度、話し合い健康面への情報の共有を図り介護計画に反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回担当者会議の話し合いをもとに介護計画の見直しを行っています。日々の業務の中でモニタリングをし介護日誌に記録しています。また、状況に変化があれば、随時介護計画の見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望があれば、出来ることから対応しています。かかりつけ医の通院介助、美容室への送迎支援、墓参り、住み慣れた地域への散策によるメモリーケアへの配慮など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今までのかかりつけ医について、対応出来る事を説明しています。ホームのかかりつけ医は、週2回、往診があり緊急時には、24時間電話で対応しており、受診も可能となっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取り指針について説明し、同意を得ています。重度化した時は、ホームとして出来る事、出来ない事を見極めチームで取り組んでいます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修を実施し、プライバシーの確保に取り組んでいます。日々のケアの中で、言葉づかいや対応に気付いた時は互いに注意を促しています。個人情報は、鍵のかかる所に保管しています。		
21	52	、 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、1日の大まかな流れはありますが、起床時間・食事時間についても強制はしておらず、暮らしの中で、利用者の意向に配慮しその都度声かけし、意向にそって支援しています。		

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、近隣のスーパーから週3回配達され、利用者の好みを聞きながらその日の献立をたて、不足の材料があれば職員と買物に行っています。野菜の皮を向いたり、切ったりして出来る事を皆で取り組み食事の準備、片付けをしています。食事が楽しいものになるように食器などの配慮と旬の材料を取り入れ、彩りにも工夫しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回～4回入浴していますが、希望があれば毎日の入浴も可能です。順番も決めておらず、利用者同志で楽しく入浴できるような配慮もしています。入浴時間帯は13時30分～20時で、好きな時間帯に入浴できます。入浴拒否の方はおられません。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな利用者が月に1回、ボランティアによる歌のレッスンを受けており現在、6名の方が参加しています。一人ひとりが持っている力を引出しながら日記をつけたり、読書や編物をしたり、散歩やドライブに行くなど楽しみごとや気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠くまで行けない方は、玄関のベンチで、外気浴をしています。職員と食材を買いに行ったり、利用者の希望する買物や、近隣の散歩、ドライブなども日常的に支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけずに過ごしていますが職員体制の状況により施錠する事もあります。帰宅願望のある利用者には、職員と外出し近隣を散策する等の対応をしています。21時までは、職員2名で見守りを強化し開錠するように努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て日中、夜間を想定した避難訓練を実施しています。2ヶ月に1回、ホーム独自で消防訓練を実施していますが地域の協力は得られていません。昨年より、地域へ発信するようになり、具体的な協力は得られていませんが地域住民の関心が少しずつホームに向けられてきています。	○	地域住民の協力を得て避難訓練を実施するには、運営推進会議の場で、地域住民に継続してホームより発信し、出来る事から取組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、チェック表で一人ひとりの摂取量を把握し、水分量は、水分チェックが必要な方を記録しています。日々、利用者の状況を全職員が把握し支援しています。栄養バランスについては、毎日、検食簿を利用して栄養摂取量を把握し、定期的にアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のリビングは自然に近い採光があり、明るい空間となっています。9名の利用者がテーブルを囲み集える空間が、ゆったり過ごす居場所となっています。リビングには、昔懐かしい電話があったり、使用済みの切手を利用して大きな貼り絵にし飾られています。2階では、ミニ文庫を設け、ソファを置いてゆったりと過ごすスペースを設置しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、説明し使い慣れたものを持参して頂くように伝えていきます。必要なものがあれば、買って来られています。居室の間取りは少しずつ異なり、利用者の暮らしぶりに合わせベット、タンス、椅子、仏壇、家族の写真などを持参し居心地よく過ごせる空間づくりに配慮しています。		